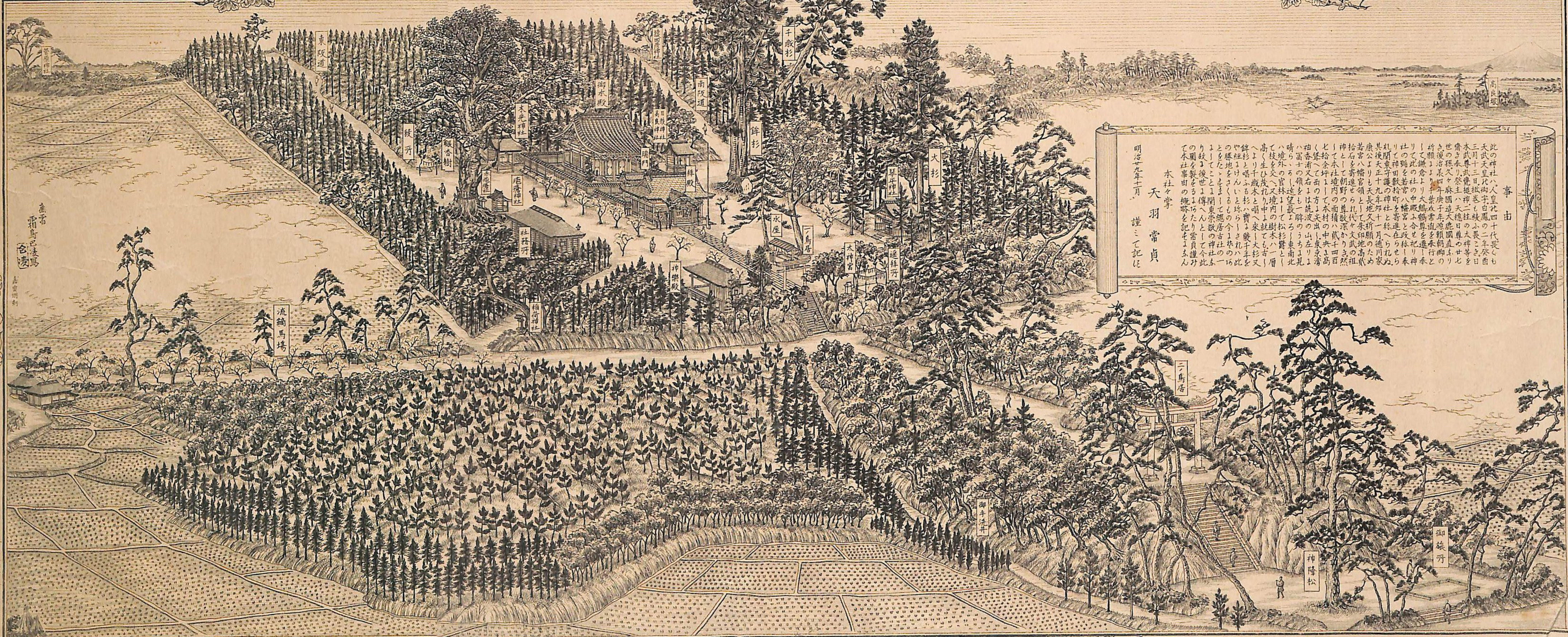


若宮八幡宮真景圖

千葉縣五總市原郡菊間村



事由
此の神社八咫皇此四十代聖くも
天武天皇此御宇白鳳の二年癸酉
三月十三日根巻も岐小長こき日
本武尊武甕槌神二柱の大御等日
齋を奉り祭主八咫日尊の廿七
世の孫父々麻呂造大國直直
き後若狭四年庚子年源朝綱の
所願より大鶴常直を奉行と
りて御倉より大鶴常直を遷し奉
りて此の社の中殿ふ合せ祀り奉
りて神田數拾町を寄進在らせり
れ開東守護の神社と稱へられぬ
其後天正十九年知十一月徳川家
康公より天長地久祈願のため
若宮八幡宮領として朱印地高代
拾石を寄進せられ代々文武の祖
神として朝野の尊敬深かり然
りて本社境内の面積八畝千四百
七拾余坪一して水村の中央より
七畝浦又右より流波の山左より
八畝十の嶺をも一時のうちに見
晴らるる遠望最なる東南北
ハ境外の官林一して松杉一層
へて枝を交へ又境内の樹木一層
高く生ひ茂れり中へ就ても古く
より千歳木と唱へ來り大杉又
榎杉と唱ふる杉ハ實に幾千手を
やねとけんいと珍らしされハ此
の勝地をさくも今一棧のら
よとてこと一開東家故の神社一
り故に後世傳へんとして今此
の圖を製するにたり常員謹み
て本社事由の概略を記すまん
本社々掌
天羽常貞
明治九年十月 謹みて記す

産子
相馬巴走馬
谷凌

流籠馬場

神降松

御旗所